

# SMA570材(耐候性鋼)について

#### SMA490材とは

JIS G3114に規定されている<u>570N/mi</u> <u>級の耐候性鋼材</u>です。

裸のまま使用できるW種 塗装して使用するP 種の2種類だけです。また本鋼種は47J以上 の衝撃保証があるため他の鋼種ですとCクラ スに相当します。

本鋼種の起源は1932年代にUSスチール社で開発販売されたCOR-TEN鋼です。当初は貨物車の鋼材として使用されていたようです。

耐候性鋼材は表面緻密な錆を発生させ内部 まで腐食が進行しないように設計された鋼材 です。錆びない鋼材ではありません。

設計としてはCu・Cr・Ni等を添加した低合金鋼です。W種P種の成分上の違いはNi(ニッケル)入りがW Ni無しがPです。



最近の傾向は、錆びた色・初期錆・初期の錆水が景観上好ましくないとの理由でWでも塗装して使用される事が多い様です。余談ですが、最初に日本で本格的な耐候性鋼材を使用した橋は1967年に架けられた知多2号橋と言われています。

また、道路橋示方書(平成24年3月版)ではW種のみが選定標準とされP種は含まれません。

JIS G3114(2008)より抜粋 (一部省略)	厚板の板厚25mmの場合を示す。板厚により数値は変化します。
----------------------------	--------------------------------

	規格名		SMA570P		SMA570W								
	使用方法		原則、塗装して使用		原則、裸のまま使用								
	製造板厚		100mm以下										
製法	製造	方法	特	に記載なし									
表広	熱処	理	圧延のまま。必要に応じ焼ならし、焼き	圧延のまま。必要に応じ焼ならし、焼き入れ焼き戻し可。協定によりTMC他も可 *1									
	化学原	或分	溶鋼単位										
試験単位	引張	<b>計</b> 館	同一溶鋼で最大と最小厚さが2倍以内のものを一括し1組。										
	אנוכ	140周大	熱処理を行ったものは、同一熱処理条件毎 (上記と同条件)										
	衝擊	試験	同一溶鋼で同一熱処理毎にその最大厚さを一組										
	降伏点(YP)	(N/mm³)		450以上									
	引張強さ	(N/mm³)	5	70~720									
	伸び	試験片		5号									
機械的性質	(min)	伸び (%)		26以上									
	曲げ	式験	規定なし										
	衝撃試験	J	47J以上										
	1五十 0200人	温度		-5℃									
超音波挖	R傷試験 (JIS (	G0801)	当事者間の協定による										
寸法公差 板厚			一般 (JIS G3193 表5)										
3/4/4	板厚」	以外	—般 (JIS G3193 による)										
溶接性	Ceq (max)	(%)	0.44%以下(t≦50)	0.47%以下	(50 <t≦100)< td=""><td></td></t≦100)<>								
	Pcm (max)	(%)	0.28%以下(t≦50)	0.30%以下	(50 <t≦100)< td=""><td></td></t≦100)<>								
	C (max)	(%)	0.18以下		0.18以下								
	Si	(%)	0.55以下		0.15~0.65								
	Mn	(%)	1.40以下		1.40以下								
	P (max)	(%)	0.035以下		0.035以下								
化学成分	S (max)	(%)	0.035以下		0.035以下								
	Cu	(%)	0.20~0.35		0.30~0.50								
	Cr	(%)	0.30~0.55		0.45~0.75								
	Ni	(%)	_		0.05~0.30								
	上記以外	の元素		添加可									

<sup>\*1</sup> 一般的には、焼き入れ焼き戻し(Q)か、熱加工制御(TMC)で製造される。



### 一般的な市中入手性について

SMA570クラスの鋼材は、市中での入手は大変困難です。

もし、入手できるルートがあるとすると、過去に施工された物件の余剰材以外には無いと思われます。

また、SMA570材は市中入手困難な為、通常メーカーにて新規ロール対応となりますが、メーカーでの最低ロット及び適応スラブの有無により、小ロットでは入手の難しい鋼種です。

# 溶接棒について

溶接する場合、専用の溶接棒が必要となります。

SMA570材の場合 被服アーク溶接棒でしたら DA5816W(JIS)。CO2でしたらYFA-58W(JIS)等を使用します。

また、各溶接棒メーカーでの推奨品がありますので、詳しくはお取引のある熔材商にお問い合わせください。

橋梁における板厚による鋼種選定標準(道路橋示方書表-1.6.1より)

板厚(mm)	6 8	16	25	32	40	100
SMA570W						

### 石原商事の取り組み

残念ながら、当社ではSMA570材の在庫は有りません。

御問い合わせ頂いた場合、当社とお取引のある橋梁メーカーもしくは、シャーリング工場に過去の物件の余材を調査し、運良く余材在庫があれば入手というルートになります。

しかし、当社では、橋梁・鉄道での使用を視野に入れてSMA400W種のABCの各グレード及び SMA490CW-H(降伏点ー定鋼)を標準で在庫しています。

また、当社で在庫するSMA材は、全て新日鐵住金㈱製で、メーカーとの協定仕様により、JIS及び道路橋示方書より厳しく設定されたハイスペックな鋼板です

# 標準在庫(定尺及び切板販売)

規格	4.5	6	9	10	11	12	14	16	19	20	22	25	28	30
SMA490AW	0													
SMA400AW		0	0	0		0	0	0	7					
SMA400BW									0		0	0	0	
SMA400CW														

規格	32	36	38	40	42	45	50	55	60	65	70	75	80	85
SMA400BW		0		0										
SMA400CW-H						0	0							
SMA490CW-H								0	0	0	0	0	0	

\* 2014,04現在の標準在庫です。最新の在庫に関してはHPの最新在庫表をご覧ください。 また標準外の為、表に載せていない在庫もございます。HPよりお気軽にお問い合わせください。

# 参照資料



JIS ハンドブック 鉄鋼 I 財団法人 日本規格協会 出版



JIS ハンドブック 鉄鋼 II 財団法人 日本規格協会 出版



道路橋示方書 平成24年3月 財団法人 日本道路協会 出版